



はじめに

第6回「あの森を訪ねて」は、古都鎌倉を取り巻く森の中を歩く。

歴史探訪や神社仏閣の参詣などで訪れることの多い鎌倉だが、ハイキングコースもたくさんあり、森林散策も楽しむことができる。

コースは、**鎌倉駅～鶴岡八幡宮～杉本寺～衣張山～名越切通～鎌倉駅**とした。

距離は、およそ6 km。そのうち約2 kmが森の道。

鶴岡八幡宮の森と大銀杏

まず、美林50選に選定されている鶴岡八幡宮の裏山と平成22年3月の強風で倒された、かの有名な大銀杏のその後を見どころにした。



神社裏山の森林は、スダジイやタブを主林木とする常緑広葉樹林で、鎌倉では数少ない自然林の一つである。林内への立入りはできないので遠望するしかないが、森と神社が一体となって、いかにも神域にふさわしい趣をつくりだしている。



大銀杏は、倒れた直後の春には律儀にも時を感じて、切り倒された根株やそばに置かれた大きなぶつ切りの胴体部からもひこばえがビッシリと生えた。その様は、まさに植物の持つ生命力の逞しさを見せつけて感動的でした。

あれから3年余、さすがに根のない胴体のひこばえは枯れ果てて、白い木肌を秋の日に晒していたが、それはそれなりに長い年月を生きてきた迫力と存在感を主張し、威厳さえ感じられる。



かたや、根から出たひこばえのうち、選木された1本だけが緑の

葉を繁らせて雄々しく育っていた。高さは1 mを超え、太さは2 cm位になっていると見受けられた。



何とか、このまますこやかに成長し、新たな時を刻んでくれることを祈らずにはられない。

杉本寺

八幡宮からは車の往来が激しい県道を避けて荏柄天神社前を通る細い道をたどり杉本寺をめざす。

杉本寺は、鎌倉幕府が開かれるより500年も前に創建され、坂東観音霊場33か所の第1番札所となっている鎌倉最古の寺。



長い歴史を感じさせる本堂の薄暗い中で、間近に仏像を仰ぎ見ていると、「いろは歌」の意味するところも解せぬ凡夫の身だが、知らずのうちに背筋が伸びる。

森に入る

長い石段を下り、途中で睨みつける仁王様に目礼し、滑川に架かる犬懸橋を渡って森に向かう。

十字路の案内標識で平成の巡礼道を選ぶ。これが衣張山への道。

なお、ここより一つ右手の谷筋の道は釈迦堂切通に通じている。

洞門状の切通で、鎌倉の切通の中では一番の迫力。ただし、通行

禁止なので柵の手前で眺めるだけ。

少しの間住宅地の中を行く。鎌倉は谷筋に沿った住宅地も多い。

空中写真をみるとアメーバーが仮足を伸ばして森に入り込んでいるようにも見える。

森に入るとスギの林となる。

樹高が高く枝打ちも行われており、アオキ、シロダモ、イヌビワそしてシダなどの下層植生も豊富である。このスギ林は稜線付近まで続く。

鎌倉でもスギやヒノキなどの植林地や萌芽更新の広葉樹林をよく見かける。数十年前までは、里山として、植林活動や薪炭林としての利用がなされていた証である。



現在、林業活動としての森林利用は考えにくい状況にあるが、そんなことにはお構いなく、林立する木々は天を目指して育っている。

鎌倉の森林

鎌倉市全体の森林面積は約1300ha。そのうちスギやヒノキの人工林は180ha余と森林面積の14%程をしめている。

特徴として、森林の開発や林木の取り扱いなどに法的制限のある面積が82%と高いことがあげられる。これには歴史的経緯がある。

今、人々を引きつけ賑わいを見せている鎌倉も、幕府が滅亡したあとの室町時代中期以降には静かな農漁村となり、江戸時代になって寺社への参詣客が訪れるようになるが、明治の初めでも大仏や長

谷寺周辺に都市的集落が分布するのみであったとのことである。

その後、明治22年(1889)の横須賀線の開通により、鎌倉が観光地として脚光を浴び、また、別荘地などとして文化人なども居を構えるようになった。

その後、昭和30~40年代の高度経済成長に伴って、兵馬ならぬブルドーザーによる「昭和の鎌倉攻め」と呼ばれる大規模開発が各所で行われるようになり、急激に森林や緑が減少することになった。

この事態に危機感を募らせた市民や文化人による緑地保全運動が高まり、ついに昭和41年(1966)に古都保存法が制定された。これにより、森林の保全を法的に裏付ける事ができるようになった。

衣張山

平坦地を抜けると急斜面を上る九十九折れの山道となる。息を切らせて稜線にたどり着けば、標高120mの衣張山の頂上は近い。



尾根筋は、スダジイ、コナラ、ヤマザクラ、ミズキ等の常緑や落葉広葉樹の林となる。中には、タイワンリスに皮をむかれて痛々しいさまの木も散見される。

衣張山頂上からの眺望は絶景。

谷沿いの住宅は山壁に埋もれて市街の中心部や由比ヶ浜と相模湾、源氏山から大仏に続く山並みと稲村ヶ崎、そして、その彼方には丹沢や箱根の山々を前景に富士の秀麗な山容がかすかに見える。

名越切通へ

2、3のアップダウンがある稜線歩きが続き、3つ目のピークを過ぎると急な下りとなる。下りきると逗子鎌倉ハイランド住宅地。

ここも大規模開発された住宅地の一つ。住宅地の最上端部の遊歩道を進み、舗装された道路に出たから少し先を右手の山中に入ると、ほどなく尾根道となる。

右手にスギ林、左手に逗子の市街や海岸の眺めを楽しみ、大切岸(おおきりぎし)の崖上を通り名越切通に向かう。大切岸とは、800mにも及ぶ鎌倉時代の石切り場跡。

法性寺祖師堂から、その一部を見ることができる。

名越切通

鎌倉には7箇所の切通しがある。

その一つ、鎌倉から逗子を通り三浦半島に通じる峠にあるのが名越切通。古くは古東海道として、江戸時代は浦賀道として盛んに利用されていた要路上にある。



逗子側の掘割や、やぐらの団地のような「まんだら堂やぐら群」を柵の隙間から見て、鎌倉方面に下る。すり減った石段を下り、横須賀線のトンネルを下に見て、踏切を渡るとバス通りに出る。

ここからは、バスで鎌倉駅に向かうもよし、近傍の寺社を巡りながら駅まで歩いてさほどの距離ではない。

(2013.9 瀧澤)